

月刊 社会保険

1

2024 VOL.882

一般社団法人
全国社会保険協会連合会

日本年金機構からのお知らせ

令和5年度「わたしと年金」エッセイ審査結果について

【事業主の皆様へ】 キャリアアップ助成金

年収の壁対策として 労働者1人につき最大50万円助成します！

パート・アルバイトで働く「130万円の壁」でお困りの皆さまへ

配偶者手当を見直して 若い人材の確保や能力開発に取り組みませんか？
いわゆる「年収の壁」対策

マネビタ 官庁や業界団体の夢のコラボ

専門家から学ぶ お金の基本 — 企業型DCやiDeCoの学習の導入に—

日本年金機構からのお知らせ 令和5年度「わたしと年金」エッセイ審査結果について	4
【事業主の皆様へ】キャリアアップ助成金 年収の壁対策として 労働者1人につき最大50万円助成します!	6
パート・アルバイトで働く「130万円の壁」でお困りの皆さまへ	8
配偶者手当を見直して 若い人材の確保や能力開発に取り組みませんか? いわゆる「年収の壁」対策	10
マネビタ 官庁や業界団体の夢のコラボ 専門家から学ぶ お金の基本 —企業型DCやiDeCoの学習の導入に—	12
年金・健康保険委員活動報告 滋賀: 草津社会保険委員として 社会福祉法人甲賀学園 児童養護施設鹿深の家 施設長 春田 真樹	14
年金制度の理念と構造 —ポイント解説 第9回 被用者保険の適用拡大 日本総合研究所特任研究員(前厚生労働省年金局長) 高橋 俊之	16
労働法のポイント 第21回 労働保険の療養(補償)等給付 監修/社会保険労務士法人SKMオフィス	18
新たな時代の働き方改革 —仕事の「ムダ」がなくなる超・時短術 第9回 読まれるメールの書き方 株式会社クロスリバー代表取締役CEO 越川 慎司	20
書評 荻部 直 著 小林秀雄の謎を解く—「考えるヒント」の精神史	22
がんケア、さらなる社会化に向かって 第9回 人間の回復と社会の回復 そこには、それを支える人の存在があった。 NPO法人キャンサーリボンズ 編	23
食べて元気! 楽しい食事の秘訣 第2回「年末年始で太る」から逃れるためには 管理栄養士 健康運動指導士 NR・サプリメントアドバイザー 菊池真由子	26
認知症を予防する⑥ 第9回 ApoE遺伝子とアルツハイマー病 お茶の水健康長寿クリニック院長 白澤 卓二	28
社会保険Q&Aシリーズ 健康保険編 30/年金保険編 32/労働保険編 34 特定社会保険労務士 柳田 恵一	
介護保険の基礎講座 第9回 ショートステイについて 介護支援専門員・社会福祉士 伊藤 直美	36

表紙写真・山梨県 富士山とご来光/イラストレーション・水森亜土/デザイン・編集協力・(有)フェイム/印刷・(株)アイネット

社内閲覧
などにも
便利!Web版はこちらよりご覧になれます。
<https://www.zensharen.jp/ebook/2401/>
パスワード: ruhf8

滋賀：草津社会保険委員として



社会福祉法人甲賀学園
児童養護施設鹿深の家 施設長
はる た ま さ き
春田 真樹

地域の紹介

滋賀県は日本のほぼ真ん中に位置し、古くから文化・経済の先進地として栄えてきた場所です。

日本最大の面積を誇る琵琶湖は、県土の1/6を占めています。大小460本の河川が流入し、流出河川は瀬田川の1本のみであり、近畿の水がめとして流域の生活を支えています。滋賀県は海の無い内陸県ではありますが、多くの人が琵琶湖のことを「うみ」と呼び、また滋賀県庁は公式ホームページのロゴに琵琶湖の形をあしらった「Mother Lake」と表記するなど、県民全体が琵琶湖を大切にしている様子が伝わるかと思えます。

地域の紹介をする上で欠かせないことの1つに、滋賀県が世界一の記録を持っている点にも触れなければなりません。

1927年2月14日、伊吹山滋賀県米原市標高1377m測候所で観測した積雪量は11m82cmに達し、これは、4階建てのマンションや、鎌倉大仏の座高に相当するほどだそうです。県北の長浜市は、近畿以西で唯一、特別豪雪地帯に指定されており、記憶に新しいところでは、令和3年12月に大動脈の1つである国道8号線において、大雪により大規模な自動車の立ち往生

地域の紹介

が発生し、改めて滋賀県の雪深さを印象付けたところです。

その他、滋賀県庁のホームページ「滋賀県なんでも一番」というページには、県内の特徴をランキング形式で紹介しています。

例えば、県内総生産に占める第二次産業や製造業の割合が全国一位であるとか、出荷額が一番である製品がいくつもある等の情報が見取れます。県内各地に工業団地が集まっている状況を見ると、生産や出荷に適した立地条件なのだろうと想像できます。

さらに、男女ともに長寿県であったり、国指定の重要文化財(建造物)の指定件数が京都・奈良に続き全国3位であったり等、改めて調べてみると、様々な分野で滋賀県の魅力を再発見することが出来ます。

自然環境に恵まれ、歴史的に文化と政治が交差し、交通の要所として栄えた滋賀県は、働く人にも住む人にも魅力あふれる土地の1つであると自負しています。

法人の紹介

当法人は、滋賀県甲賀市において児童養護施設「鹿深の家」と地域小規模児童養護施設「第二鹿深の家」を運営しております。

法人創立は昭和37年7月。当時、廃

校となった中学校の土地と建物を甲賀町から無償譲渡されたことを受け、地元のみ生委員・児童委員の皆様方の働きかけにより、滋賀県内で4番目の児童養護施設として誕生しました。創立から60年が経過し、建物の老朽化が目立ち始めました。また、地域福祉の基幹的な施設に生まれ変わるべく、本年11月からクラウドファンディングに挑戦し、施設の大規模改修の費用調達を行うことになりました。詳しくは当施設ホームページへお越しください。

ところで、この「鹿深」というあまり見慣れない言葉は、「かふか」と読みます。甲賀の古い読み方であり、甲賀の土地に文化を開いた鹿深臣(かふかのみこと)に由来しているそうです。この「鹿深」が「かつか」として「こうか」と変化していったという説が代表的です。

名は体を表すという言葉の通り、元々中学校であったという敷地の広さと、豊かな自然環境に恵まれた当施設は、様々な事情で家族と暮らせなくなった子ども達が生活する場所です。さて、「様々な事情で家族と暮らせなくなった」と表現しました。

児童養護施設は、児童福祉法において、「保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の

自立のための援助を行うことを目的とする施設」と定義されています。近年、児童虐待の問題が全国各地で様々なメディアを通じ報道されているところですが、施設入所の主な理由が虐待を受けた経験があるためという割合が年々増加している状況です。

実は、児童養護施設は、一般の方にはものすごく遠い存在として受け止められております。献身的な職員が崇高な理念の下に集まり、傷ついた子ども達と共に暮らしているという場であり、「無知な私が安易な気持ちで関わってよい場所ではない」ということを思わず感じてしまうという声を直接耳にしたことがあります。

決してそのような場ではありません。私たち児童養護施設は、一般のご家庭と同じように、「子育て」を行っています。このことをもっと広く世の中に発信しようと5年前から企画を温め、本年5月に書籍を発刊しました。



●鹿深の家ホームページ
https://kafuka-home.com/
●書籍の購入は当施設のホームページをご覧ください。

よろしければ皆様ぜひ手に取って頂きたい一冊です。

委員会活動について

滋賀県社会保険委員連合会は3つの委員会(大津社会保険委員会・草津社会保険委員会・彦根社会保険委員会)で構成されており、私は平成21年から草津社会保険委員会に所属し活動しています。10数年間の時を経て、気づけば草津社会保険委員会の会長という役割を担うようになり、職場だけでなく少しい視点で社会保険委員の活動を見ていく立場へとなりました。

委員会においては、毎年6月に定期総会を行い、2月には社会保険委員事務講習会を開催しています。コロナ前は役員研修を行っており、幅広い業種の皆様方と研鑽を積んできました。

滋賀県社会保険委員連合会の活動については、11月に社会保険委員大会を開催しています。大会開催時には、健康器具を使い各種測定会のコーナーを設けるなど、参加者から好評を得ております。コロナ禍の中では、これらの活動が一時機能停止することもありましたが、少しずつ以前の活発さを取り戻している印象です。

おわりに

この秋、当施設の呼びかけにより、滋賀県内の児童養護施設等で暮らす子ども達を対象に、社会保険を学ぶ会を開くことになりました。高校生以上を対象として企画を進めているところで、先日、この取り組みに賛同して下さった草津年金事務所の所長をはじめ職員の皆様方と打ち合わせを行いました。年金制度のとつきにくさをいかに分かりやすく伝えていくかという点で活発に意見交換を行いました。

児童養護施設で暮らす子ども達は自立した社会人として自立していきま。保護者等から不遇な扱いを受けた子ども達ではありませんが、社会全体が彼らの育ちを見守り、支え続ける仕組みを整えることにより、彼らは将来の我が国を力強く支える原動力となります。

たまたまご縁を頂いて社会保険行政と深いつながりを得たことにより、それが自身の仕事のバリエーションを増やすこと



児童養護施設 鹿深の家

(草津社会保険委員会 会長)

に繋がりましたし、また、次世代を担う若者達へ引き継がれていくことを身をもって体験しているところです。

全国の社会保険委員の皆様方におかれましては、活動されている近くにごうした施設が存在しているかと思えますので、ご支援、ご協力頂ければと切に願っております。